

# “被就业”構造に見られる文法的バリエーション現象

張黎 鹿兒島国際大学大学院博士後期課程

キーワード：文法的バリエーション、意味カテゴリー、品詞認定、意味的特徴、統語的特徴

## 1 はじめに

「2009年度の流行語ベスト10」に入った“被就业”構造は新しい受け身表現として、中国語研究界で注目を集めている。しかし、文法的バリエーションの観点から“被就业”構造の統語的特徴や意味的特徴を考察する研究はさほど多くはないようである。

“被就业”構造における“被”の意味・用法は文法的バリエーション現象の一つとしてとらえられる。コーパスから抽出した用例を観察してみると、“被就业”構造が示す文法的バリエーション現象は従来の受け身表現の定義とは食い違うようなものがあつた。特に、“被就业”構造における“被”と“就业”の間に行為の主体が存在するかどうかについては、まだ明確なルールが示されていない。

本研究では意味カテゴリー(semantic categories)という概念を取り入れて、文法的バリエーションの観点から、“被就业”構造における“被”の品詞や意味特徴・統語特徴について考察を試みる。さらに、伝統的な受け身表現との比較を通じて、“被就业”構造が成り立つ内在的法則を浮き彫りにする。

## 2 先行研究と本研究の立場

曹起(2013:105-112)は構造的特徴の観点から、“被就业”構造について、“新兴‘被X’结构紧密、不能插入别的成分。传统‘被’字句一般可表示为：NP<sub>1</sub>(受事)+被+NP<sub>2</sub>(施事)+VP(及物动词)，其中的NP<sub>2</sub>有时可以省略，没有出现的NP<sub>2</sub>也可以添加……新兴“被X”结构的一般表达式为：NP<sub>1</sub>(受事)+被+X(不限于及物动词)，‘被’与‘X’间不存在NP<sub>2</sub>，NP<sub>2</sub>实际已处于NP<sub>1</sub>的位置。”のように述べている。

しかし、曹起(2013:105-112)の記述は、次のような用例を十分に説明することができない。

(1)此外，一些雄心勃勃的大学生不满意被人就业。(《有道网》dict.youdao.com)

上記の例(1)における“被就业”構造は受け身表現であるにもかかわらず、曹起(2013:105-112)で言及した“他の成分を挿入することはできない”の“NP<sub>1</sub>(受事)(行為の対象)+被+X(不限于及物动词)(他動詞に限らず)”という構造ではない。例(1)における“被就业”構造は“NP<sub>1</sub>(行為の対象)+被+NP<sub>2</sub>(行為の主体)+VP”という伝統的な受け身表現に属していることを認めなければならない。そのため、曹起(2013:105-112)の“被”と“就业”の間にはNP<sub>2</sub>が存在しないという説は、流行語としての“被就业”構造における“被”の意味・機能を十分に説明することができない。曹起(2013:105-112)に対して、本研究では、“被就业”構造は受け身の行為の主体を持つ場合もあると考える。

次に、“被”の意味素性を明らかにすることに客観的な根拠を提供するため、本研究では、“被就业”構造における“被”の品詞認定にも言及する。“被就业”構造における“被”の品詞認定について、小学館の『中日辞書』(第三版)、《现代汉语词典》(第七版)では動詞として解釈している。

しかし、辞書は単語の意味・用法を記すことしかできず、語と語の間のインタラクティブな関係という立場に立って記述することに無理がある。もちろん、これは辞書の限界である。筆者が作ったコーパスによれば、“被就业”構造は、「分解可能」と「分解不可能」という二種に分けられる。上記の例(1)における“被就业”構造は「分解可能」に属し、その“被”が介詞としてとらえることができる。例(1)と対照的に、例(2)における“被就业”構造は「分解不可能」という特徴を持っている。

(2)在倡导多元化，个性化的时代，“慢就业”有助于丰富就业选择，化解“被就业”现象。(《中

国青年报》2017年5月2日)

例(2)における“被就业”構造は“被+自動詞”であり、伝統的な受け身表現の“被+N+VP”というパターンを打ち破る意味関係を持っている。“被”は自動詞と分離できず、固定的なフレーズを構成しているので、接頭辞のような意味的特徴を持つようになったのである。

### 3 “被就业”構造における“被”の品詞認定と意味的特徴

#### 3.1 “被就业”構造における“被”の品詞認定

本研究の「分解可能」と「分解不可能」の基準に基づいて考え、まず、「分解可能」に属する“被就业”の意味構造について分析を進める。

(3)此外,一些雄心勃勃的大学生不满意被人就业。(例(2)を再掲)

(4)整个楼的人都被我吵醒。(《中国青年报》2004年1月14日)

例(3)における“被就业”は“行為の対象(大学生)+被+行為の主体(人)+行為(就业)”という形で構成されている。それと同様に、例(4)も“行為の対象(整个楼的人)+被+行為の主体(我)+行為(吵醒)”という形で構成されているので、伝統的な受け身表現としてとらえられる。構文的特徴から見れば、例(3)における“被”は行為の主体の“人”の前に位置し、例(4)における“被”は行為の主体の“我”の前に位置している。つまり、意味構造においても統語機能においても、例(3)と例(4)における“被”は何らの違いもないと言える。

語と語の間のインタラクティブな関係から見れば、例(3)の“被”と例(4)の“被”は同じ意味素性を持ち、行為の主体と述語動詞を導く働きをする介詞として認められる。さらに、例(3)(4)は介詞としての“被”から構成される受動文であり、マイナスな意味が含まれているので、“强迫”(無理従わせる)あるいは“当作”(〜と伝えられている/こととしてとらえられている)という意味を含んでいる。

(3)此外,一些雄心勃勃的大学生不满意被人(强迫/当作)就业。

次は、「分解不可能」に属する“被”と“就业”の意味構造について分析を進める。

(5)然而,将大学生“被就业”的产生简单归罪于高校,却未必完全合理。(《中国青年报》2010年9月13日)

例(5)に示すように、“被”と後続の自動詞は“被+vi”という固定的な表現形式を構成している。「分解不可能」の“被就业”構造は、“被”と“就业”との間には切り離すことができない意味関係を持つため、“行為の対象+被+行為の主体+行為”という伝統的な受動文の構文的特徴を持っていない。さらに、“被”は介詞、助詞や動詞の意味・機能から離脱し、接辞の特質を持っている。そのような“被”は伝統的な受動文における“被”の統語的特徴や意味的特徴を打ち破っており、接頭辞として認めてもよいのだろう。

以上の分析によって、“被就业”構造については、「分解可能」のパターンに属する“被”は介詞としてとらえられ、「分解不可能」のパターンに属する“被”は接頭辞としてとらえることが可能だと思ふ。

#### 3.2 “被就业”構造の意味的特徴

“被就业”構造における“被”はいったいどんな要素と共起することができるのか、“被就业”構造は文法的バリエーション現象の一つとしてとらえられるなら、派生した新たな意味カテゴリーはいったいどんな構文的特徴を持っているのかについて考察する必要がある。

「分解可能」の“被就业”構造における“被”は介詞としてとらえる場合、伝統的な受動文における“被”の意味素性と似通っているにもかかわらず、後接する要素が異なっている。伝統的な受動文

においては、“被”は他動詞あるいは心理活動を表す動詞が後接するのが普通である。それと対照的に、“被就業”構造においては、“被”は“就業”という自動詞が後接している。そのような構造は伝統的な“被+vt”という構文から離脱し、“被+vi”という新たな意味構造を形成していると言える。

一方、「分解不可能」の“被就業”構造における“被”は接頭辞としてとらえられるので、伝統的な受動文における“被”の意味素性から離脱している。すなわち、“被”は脱カテゴリー化による文法的バリエーションを増やしていると言える。「分解可能」の“被就業”構文においても、「分解不可能」の“被就業”構文においても、伝統的な文法的特徴と異なっているので、そのような意味・用法を持った“被”の統語機能については、文法的バリエーション現象の一つとして認めるべきである。

“被就業”構造の流行とともに、“被”は自動詞が後続するほかに、他動詞、形容詞、名詞が後続する現象も見られる。

(6)可是另一方面,大家之所以有时候会有一些恶搞,是担心被幸福,或者是被代表。(《中国青年报》2012年12月20日)

(7)从被高铁,到要高铁,如今高铁已成为百姓出行首选的交通工具。(《中国青年报》2017年2月7日)

例(6)(7)における“代表”“幸福”“高铁”はそれぞれ他動詞、形容詞、名詞である。“被就業”から派生した“被”が他動詞、形容詞、名詞と共起する受動文は“强迫”や“当作”のような動詞が省略されるものとしてもとらえられる。さらに、“被”は自動詞、他動詞、形容詞、名詞と共起すれば、いずれも不満の意味合いを帯びるようになるので、プラスな意味を表す受動文における“被”(“被表扬”)とまったく異なる意味構造のものとして認めなければならない。

#### 4 “被就業”構造の統語的特徴

“被就業”構造を①分解可能な“N1+被(+N2)+就業”構造、②分解不可能な“被就業”構造のように分け、それぞれの特徴について述べてみたい。

##### 4.1 分解可能な“N1+被(+N2)+就業”構造

分解可能な“N1+被(+N2)+就業”について、①“被”が必要可否かどうか、②意図性があるかないか、③目的語の接続可能かどうか、④能動文と“把”構文が互いに置き換えが可能かどうか、のように分けて考察を進める。

①伝統的な受動文においては、有標の受動文と無標の受動文に分けられる。無標の受動文においては、“被”はなくてもよいのに対して、“被就業”構造においては、“被”を欠いてはならない。

②意図性を持っているかどうかという意味構造については、伝統的な受動文においては、意図性のものであれば、非意図性のものであるが、「分解可能」の“被就業”構造においては、意図性のものでないと考えられる。

③“被就業”構造は伝統的な受動文と同じ、補語の“了”を伴うことができても、目的語を伴うことはできない。しかし、引用符を付ければ、“現象”“事情”などのような要素を伴うことが可能である。

④伝統的な受動文なら、文法規則にしたがって、能動文に還元することができる。それに対して、“被就業”構造は直接的に能動文に還元することができないが、“把”構文を形成することができるのである。

##### 4.2 分解不可能な“被就業”構造

引用符が付けられた“被就業”は「分解不可能」の構造に属し、接頭辞としてとらえられるもので

ある。このような構造においては、行為の対象が省略される場合が相対的に多い。この点においては、伝統的な受動文の統語機能と異なっている。そのため、引用符が付けられた“被就业”構造は文法的バリエーションの一つとして見なされうる。つまり、「分解不可能」の“被就业”構造も介詞としての“被”の脱カテゴリー化現象の一つとして認められる。

「分解不可能」の“被就业”は構造的に述語だけではなく、連体修飾語や連体修飾関係のヘッド、または目的語や主語などとしても機能しうるのである。

## 5 “被就业”構造と日本語の受け身表現との対応・非対応関係

流行語としての“被就业”構造はどんな場合に日本語の受け身表現と対応し、どんな場合に対応しないかということは異文化交渉の立場から見て、コミュニケーションの質にかかわる問題である。本節では、対照言語学や習得研究の観点から“被就业”構造と日本語の受け身表現について対照分析を行う。

(8) 从“要求学生就业”到“学生被(学校)(强迫/当作)就业”，高校的就业率造假日益疯狂……（《凤凰网》2009年7月20日）（「学生に就職させる」から「学生が学校に(無理に)就職させられる/就職したと伝えられている/就職したこととしてとらえられている」へと変わっていき、就職率における大学の不正がますますひどくなっていく。）

「分解可能」の“被就业”構造と「分解不可能」の“被就业”構造は「無理に就職させられた」という意味と対応していることはいままでの間でもないが、「(事実でないのに)就職したと伝えられている/就職したこととしてとらえられている」という意味とも対応しているのである。そのまま日本語の受け身表現としての「就職される」のように訳してはならない。

- ①「分解可能」の“被就业”構造については、行為の“就业”は行為の対象の“学生”によってコントロールされている。それに対して、日本語の間接受け身表現においては、動作行為は行為の対象ではなく、行為の主体によってコントロールされている。
- ②中国語の「分解可能」の“被就业”構造は意図性しか持っていないのに対して、日本語の間接受け身表現は意図性も非意図性も持っていると思われる。
- ③統語機能に目を転じてみると、「分解可能」の“被就业”構造は日本語の間接受け身表現と非対応の関係にある。
- ④「分解可能」の“被就业”構造は能動文に還元することができないのに対して、日本語の間接受け身表現は直接的に能動文に変えることが可能である。

### 参考文献

- 曹起(2013) “新时期现代汉语变异研究” 吉林大学博士学位论文
- 樊友新(2010) “从‘被就业’看‘被’的语用功能”《合肥师范学院学报》第28卷第2期, pp. 98-102
- 侯颖(2010) <“被时代”的语言学解读> 《现代语文》 2010.02 pp. 136-139
- 雷仁有 包朗(2013) <语言学视阈下的被就业现象>《和田师范专科学校学报》第32卷第1期, pp. 32-36
- 骆牛牛(2015) <论词素义的非范畴化——以“被XX”的“被”为例>《山东大学学报》(哲学社会科学版) 2015年第3期, pp.126-131
- 李明洁(2018) <“被自杀”与社会记忆的语言化——语言变异与文化记忆的关系例析>《贵州社会科学》总342期, pp.102-108
- 刘斐 赵国军(2009) <“被时代”的“被组合”>《修辞学习》总第155期, p74-81
- 彭泽润(2011) <“被自杀”等的超常修辞及其时代激活机制>《当代修辞学》总164期, P95